



九
美
蘇
蘇
蘇

蘇
蘇
蘇
蘇
蘇

0914

13.04.14



まら公十月二日

目こゆしき、長老とゆふ

いふのほちこたかこ

れきりやせりやせり

のち

新しきもの

日

みまのちとちとちとち

三つよふいゝのちとち

0914

0914

0914

Faint handwritten text in a cursive script, possibly a list or notes.

空際

まぢハ たりサ言 高家 川次 納屋

山 繁 せしとて せを

おのりおれらうらうらいりりり

このまぢおれらあうらう

まぢおれおれらられら様

あうらあうらう せり せり

まぢ のま

甲 次 君 乃 由 九 言

あうらあうらのけもれおれ

あうらのまあうらあうらう

かやのうら 城のうら 飛も

あうら せり

あうらあうらあうらう

野月

まゝにわらわらと結ん
お路れ月の気なまじ
袖のうたあつらひの
けりや路りの日な

休後

あつらひのまじり
おまじりもつと
くまのいあゆま
うらあつらひの
まじり十日の

初時辰 ちる

あつらひのまじり
おまじりもつと
くまのいあゆま
うらあつらひの
まじり十日の

あつらひのまじり
おまじりもつと
くまのいあゆま
うらあつらひの
まじり十日の

野月

あつらひのまじり
おまじりもつと
くまのいあゆま
うらあつらひの
まじり十日の

野月

あつたやうにふくふくした

あつたのうらやまのうらやま

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

あつたやうにふくふくした

かきつた

平らなところから山頂までの
距離は、約一里半程である。
山頂は、北西に傾斜し、
山麓は、南東に傾斜する。
山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

曠

この山は、昔から名所として
知られてきた。山頂には、
石の塔が立つ。塔の周囲
には、石の垣がめぐらされ
ている。山麓には、石の
塔が立つ。塔の周囲には、
石の垣がめぐらされている。
山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

かきつた

山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山麓には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山麓には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山麓には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山麓には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

山頂には、石の塔が立つ。
塔の周囲には、石の垣が
めぐらされている。

右の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり
此の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり
此の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり

十月廿九日
書元十書者
海龍

此の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり
此の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり

上案

此の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり
此の如き事ありては
心ならずも此の如く
なるといふは誠に
可成り苦しき事なり
と云ふは又も何れ
の事かと思ふ所なり

十月十三日お茶市に参らん

此者近來左府に在りて

ふれ坊上人の體に未だ思ふ

由重左府申院左下宇に

此書ありておのゝ言ひに

二書あり

秋野鴻崎

いさすら月をほつて

やしまり侍又侍のなり

さうさうに歌しまつた秋

月よりりよのまゝなり

小畑

おそくはみちのくに

松のそとに

あつたは

はらう

安達原

おほく

あつた

おほく

あつた

錯摩

おほく

あつた

おほく

あつた

會坂岡

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

叙言

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

炭電燈 吉田二郎

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

いさくはらへんそくしき

勢りくぬくそくし
ねんふふのこころ
深のねんふふに
みくふふふふふふふふ

抄

くくあつこのころ
みすねんふふふふ
ふふふふふふふふ

の

くくあつこのころ
ふふふふふふふふ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

くくあつこのころ

てんりつとせうりつ
しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

しんりつとせうりつ

あつたてのうらな
~~あつたてのうらな~~

水鏡をみる

あつたてのうらな
あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

がまきいしよりあのおお

即及又々

おぼんさきさきん

即(おちちち)こころさき

昔よりくもくもくも

るよていあひあひ

いひあひ

多しあもくししーいん

あひあひあひあひ

二九年中流あり 後は

いひあひあひあひ

ながるしあひあひあひ

あひあひあひあひ

いひあひあひあひ

あひあひあひあひ

あひあひあひあひ

あひあひあひあひ

あひあひあひあひ

あひあひあひあひ

社頭

あひあひあひあひ

あひあひあひあひ

みづとくまの神さま

二十日かすもた

夜物

まじりたか

物くせいのたの

夏のとら

物

ま

まじりたか

まじりたか

まじりたか

二十日かすもた

漸

まじりたか

まじりたか

まじりたか

夜物

まじりたか

まじりたか

まじりたか

まじりたか

まじりたか

まじりたか

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

花の甲斐の松の松

第 四 十 一 号

一、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

Handwritten text in cursive script, including the word "Walter" written vertically in the center.

Handwritten text in cursive script, appearing as a continuation of the text on the opposite page.

Handwritten text on the left page, including the word "London" and other illegible cursive script.

Handwritten text on the right page, including the word "London" and other illegible cursive script.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The text appears to be organized into several lines, with some words being more prominent than others. The overall appearance is that of a historical document.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The text appears to be organized into several lines, with some words being more prominent than others. The overall appearance is that of a historical document.

